

ドレミファ器楽

フルスコア

SK-74

ベートーベン  
「運命」終楽章(抜粋)

小島里美編曲

ベートーベンが形式の完全性を獲得した、中期(1808年頃)の作品とあって、その「形式の完成」は驚嘆すべきものである。この第四楽章は、ソナタ形式で作られており、第一楽章と両側に対置するにふさわしく充分な重みをもって、整然とまとまっている。

ここではこの偉大な名曲に、慣れ親しんでもらえるよう、器楽合奏用に、主要テーマと結尾部を中心に抜粋して編曲してある。

〔演奏上の注意〕

テンポ表示は Allegro (後に Presto )とあるが、無理して速くするよりも、一つ一つの音を大切に、しっかりと演奏できるテンポで、堂々とした感じにした方がよいかも知れない。(勿論、原曲のイメージ通りのテンポで、きちんとできれば、それにこした事はないが) 鍵盤ハーモニカは、ⒶやⒼの 3.4 小節目のように同音をくり返す時には、タンギング奏法に統一した方がよい。(打鍵をしない) 木琴や太鼓類にある  は  の略なので、いいかげんなトレモロにすることなく、16分音符をきちんと演奏して欲しい。

Ⓑのリコーダーの Opt は、出来る人だけ (Soloでもよい) 演奏すればよい、ということである。

アコーディオン、鍵盤ハーモニカ、及び木琴、鉄琴に於て  
和音が書かれてある箇所は、和音弾きをせず、各々が一つ  
ずつ音を弾き、和音をつくって下さい。

◎ ミュージックエイト

*Allegro*

フルート  
(無くても)  
演奏可能

ソプラノ  
リコーダー

鍵盤  
ハーモニカ

ソプラノ  
アコーディオン

アルト  
アコーディオン

テナー  
アコーディオン  
(オクターブ)  
上に記譜

バス  
アコーディオン

木琴

鉄



This section contains four staves. The top two staves are for woodblocks (木琴), showing eighth-note patterns. The bottom two staves are for iron (鉄), showing sixteenth-note patterns. The music is in common time and includes several measures of rhythmic patterns.

SAMPLE

ベートーベン  
「運命」終楽章(抜粹)

鍵盤ハーモニカ

小島里美 編

*Allegro*

